

# The present condition of materials archiving in the State Library of NSW

—by classifying the original drawings of Edmund Bracket—

Miki Watanabe

*Ashikaga Institute of Technology*

## Abstract

The Mitchell Library in the State Library of NSW was established in 1910 to store 70,000 items which were donated by David Scott Mitchell (1836–1907) an enthusiastic collector of Australian-related materials. The State Library is in the process of executing “project 2001–2010” to celebrate its collections and services, and in 2010, the Mitchell Library will celebrate its centennial anniversary. Ten of the Library’s collections have been selected for special display in each year from 2001 to 2010. The project contents include not only the celebration of each featured item through exhibitions but also the digitization of materials and development of an Electronic Archive.

This research aims to clarify the present condition of materials archiving of the State Library’s special collections by classifying the contents of “The E. T. Bracket Plans –including Cyril Bracket and Arthur Bracket–”. I classified the stamps and seals of church drawings attributed to Edmund Bracket. The total 4,745 sheets of original materials kept in the Mitchell Library include not only drawings by Edmund Bracket but also those of his sons’ office, sketches and letters. 1,963 sheets of these materials were the subjects of this research. I thoroughly investigated the seal and stamp of each drawings, and checked the characteristics of the title logo. As a result, the following facts were revealed ; (1) Six of Bracket’s architect offices have 12 types of seals. (2) 235 sheets out of the total 1,963 drawings were stamped with the seal of Edmund Bracket’s office, and 366 sheets were stamped with the seal of his sons’ offices. (3) The projects handled by Edmund Bracket until completion number only 22 out of a total of 114 projects.

Using this classification, it was clarified that the drawings which are belonging to Edmund Bracket is very little among the drawings in the title of “The E. T. Bracket Plans — including Cyril Bracket and Arthur Bracket —” were actually very few in number. Furthermore, the materials which can be referred to by online indexes (PICMAN or WEBCAT) are limited to the materials after 1980 or 1992. These facts indicate that some of the materials in the Library have not been sufficiently archived. Digitization and construction of a materials database are now underway, and the State Library is collecting funds for the archiving of 80,000 items of architectural drawings.

# NSW 州立図書館古文書館の資料整理の現状

——建築家エドモンド・ブラケットの建築図面の分類を通して——

渡 邊 美 樹

足利工業大学

## 1. はじめに

NSW 州立図書館（古文書館は通称ミッチェル・ライブラリー）は、オーストラリア関係資料の熱狂的な収集家であったデビッド・スコット・ミッチェル<sup>1)</sup>（David Scott Mitchell, 1836–1907）が、図書館を建設することを条件として州に寄贈した7万点の文献、資料を保管するために1910年に設立された機関である<sup>2)</sup>。ミッチェル・ライブラリーでは、2010年の100年記念を前に、2001年から10年間に渡る記念祭プロジェクトが進められている（Project 2001–2010, Mitchell Library centenary in 2010）。この、「2001–2010計画」は、これまでの古文書館の保管資料と公開を記念し、文化の育成と教育の推進に末永く寄与するために、大規模な行事計画を遂行するものである。記念行事が行われる10年間には、建築の大規模な改修工事に共に、1年度ごとに図書館内の主たる所蔵品を取りあげての企画展示が行われている。表-1に各年の特集事項を示す。これら、毎年取りあげられる内容や活動内容をみると、ミッチェル・ライブラリーの将来的な役割と展望すなわち、①植民地の歴史と資料価値を再認識すること、②利用者がより手軽に資料を利用できるよう、デジタル・データベースとデジタル・ライブラリーの構築を推進する活動が積極的に行われていることが解る。特に、オンライン・コレクションの構築は、海外利用者にとっても大変便利なシステムである。

本稿では、ミッチェル・ライブラリーあるいはNSW 州立図書館の資料公開システムの現状を概観する一方で、資料数は膨大であるが整理が十分に成されていない建築家エドモンド・ブラケット（Edmund Thomas Blacket, 1817–1883）の設計図の分類結果をまとめ、資料整理の現状を知ることが目的とする。

- 
- 1) 軍医の息子として生まれる。1898年の時点オーストラリアの文献資料を約610,000点を収集していた。
  - 2) ミッチェル・ライブラリーの他にも、ディクソン卿（Sir William Dixon, 1870–1952）が寄贈した資料の保管場所としてディクソン・ライブラリーが併設されている。現在の状況では、新たに購入または寄贈された資料はミッチェル・ライブラリーに所属しており、事実上ミッチェル・ライブラリーが古文書館の母体となっている。資料保管数はミッチェル・ライブラリーが780,000点以上、ディクソン・ライブラリーが20,000点である。

表-1 ミッチェル・ライブラリー 100 年祭 2001-2010 プロジェクト

年度	タイトル	内 容	備考
2001	マシュー・フリンダース：極限の旅	航海士マシュー・フリンダースのコレクションの展示	並行して、資料のデジタル化を行い、デジタル・ライブラリーを構築する
2002	南極大陸 2002	南極に関するコレクションの展示	
2003	スポーツ	スポーツの歴史とコレクションの展示とデジタル化	
2004	マイルス・フランクリン：栄光の生涯	作家マイルス・フランクリンの生涯についての展示	
2005	アイ 4 フォトグラフィ	植民地の歴史的写真とアラン・ディビスの写真の展示	
2006	タイトル未定	ポルトガル・スペイン、オランダの探検家達の資料の展示	
2007	タイトル未定	デビッド・スコット・ミッチェル没後 100 年を記念してミッチェルと主たる寄贈者ウィリアム・ディクソン卿およびジャン・ガーリングの回顧展	
2008	タイトル未定	児童文学、挿絵原図や原稿の展示	
2009	タイトル未定	植民初期の内陸探検に関する資料の展示	
2010	タイトル未定	ラクラン・マコーリが植民地総督に就任してから 200 年を記念した資料の展示およびイベントのフィナーレ	

## 2. エドマンド・ブラケットと事務所の活動経緯について

エドマンド・ブラケットは、オーストラリアのシドニーとその近郊に数多くの教会建築、商業建築を設計した著名な建築家である。建築史家ジョアン・クー（Joan Kerr）は、エドマンドの回顧展カタログとして作成した *Edmund Thomas Blacket – Architecture Sydney –*, The National Trust of Australia (NSW), 1983 のなかで、「ブラケットは、ヴィクトリアン・シドニーを築いた重要人物であり、ヴィクトリアン・ニューサウスウェールズを立ち上げた人物であるといえる。」と述べている。

エドマンド・ブラケットに関する文献資料として、以下の3つがあげられる。

### 1) Morton Herman, *The Blackets*, Angus & Robertson, 1963

モートン・ハーマンは、*The early Australian architects and their work*, Angus and Robertson, 1954 をはじめとして数々のオーストラリア建築家についての著書をのこしている。オーストラリアの建築史の研究自体が 1950 年頃から始められたことを考えると<sup>3)</sup>、彼はオーストラリアの建築家論を築き上げた第一人者といえる。本著は、商業建築、教会建築、公共建築

3) Manning Clark, *Sources of Australia*, Oxford University Press, 1957, M. H. Mills, *Francis Greenway*, Angus & Robertson, 1949, Robin Boid, *Australia's Home*, Melbourne University Press, 1952

という章立てがなされており、建築写真や実測スケッチを含めた解説とエドモンドに関わるエピソードが網羅されている。

2) Nick Vine Hall, *My name is Blacket*, Wentworth press, 1983

ニック・ヴァイン・ホールは、エドモンドの子孫であり、12年の歳月をかけて本著を完成させた。この著書の内容の大半は1350年から著者の代までの家系図にそった「ブラケット一族の歴史」であるが、エドモンドの時代について、エドモンド自身が家族に宛てた手紙の内容や当時の新聞記事などが取りあげられており、エドモンドの人間性や当時の社会状況を知る上では貴重な資料である。本書の中で、エドモンドが5冊のスケッチブックをのこしていることが記述されており、「そのうちの2冊には英国ゴシック建築の詳細ディテールと実測図が描かれており、1959年にエドモンドの孫のロジャー・ヴァイン・ホールがフィッシャー・ライブラリー (Fisher Library<sup>4)</sup>) に寄贈した。また1冊は30ページにわたるスケッチで、1840年7月から1841年8月までの日付があり、ロジャーの孫が今でも持つ。4冊目は、1833年からの日付が書かれているもので、エドモンドの息子のオーウェンの子孫が保有している。5冊目は、エドモンドの息子ラッセルの子孫のルース・フェリスが数年前、ミッチェル・ライブラリーに寄贈した。」と述べられている。しかし、残念ながら、フィッシャー・ライブラリーに保管されていたエドモンドのスケッチブックや原図はここ数年の間に紛失した。この著書の巻末には、建築のデータ表(場所、名前、年代)が記され、表のタイトルは、「List of known buildings and structures designed by Edmund Blacket」となっているが、ブラケットの没後7年目に開始されたプロジェクトなども含まれており、エドモンド・ブラケット自信の作品としては整理されていない事が解る。

3) Joan Kerr, *Edmund Thomas Blacket - Architecture Sydney -*, The National Trust of Australia (NSW), 1983

前述したとおり、本著はS. H. アーヴィン美術館 (S. H. Ervin Museum and Art Gallery) で1983年1月から3月まで開催されたエドモンド・ブラケットの回顧展「Our Great Victorian Architect Edmund Thomas Blacket」のカタログである。本著では、主としてエドモンドが携わった作品が取りあげられており、第一部「教会」として教会作品を110作品、第二部「その他の建築(シドニー以外)」としてシドニー郊外に計画された教会以外の作品を74作品、第三部「シドニーの建築」として、シドニーに計画された商業建築、教育施設、住宅等43作品が収録されている。本著の参考資料欄によると、クーが本著で用いている資料の殆どはミッチェル・ライブラリーに保管されている設計図面であり、ブラケット以外の画家のスケッチや写真資料について一部をオーストラリア王立歴史協会(RAHS)や過去の新聞記事から出典している。クーは冒頭で、2)のハーマンの文献にも触れており、「彼の著書からは一般事柄以外は特に言及(引用)していない(I have made no particular reference to Herman's in

4) シドニー大学図書館

my text, except when major).」と断言していることから、ブラケットに関する資料の範囲が明確に示されているといえる。

これらの資料により、エドモンド・ブラケットがシドニーで名声を築くまでの概略をまとめると、以下のようになる。

エドモンド・ブラケットは、英国のサザーク (Southwark) で生まれ、鉄道会社 (Stockton & Darlington Railway Company) の調査員及び技術者として働きながら国内の中世建築のスケッチ旅行をして建築の素養を培った後、1842年に入植する。入植後間もなく設計活動を始め、技能を認められて1847年に英国国教会教区建築家 (Diocesan Architect for the Church of England) に、更に1849年にニューサウスウェールズ州植民地建築家 (Colonial Architect of NSW) に任命される。ここでエドモンドは事実上、ニューサウスウェールズ州植民地の公共建築を統括する立場となるが、当時の不況による財政難のために実際の計画が乏しく、自由に設計活動ができない状況にストレスを感じて5年目に辞職する。辞職直後にシドニー大学のグレート・ホールの設計依頼を受け、大きな業績を残した。

エドモンドは、前述したクーの著書にあげられた作品数からも解るとおり、生涯をかけて数多くの建築設計に携わっており、エドモンドの没後に継承された複数の事務所を含めると、その歴史は1842年から1920年に渡る。また、エドモンドは後に著名な建築家となった多くの弟子を育成する一方<sup>5)</sup>で、8人の子供のうち4人の兄弟姉妹エディス (Edith, 1844–1928)、オーウェン (Owen, 1851–1931)、アーサー (Arthur, 1848–1928)、シリル (Cyril, 1857–1937) を事務所 で修行させ、後に事務所を継承させている。前項であげた文献および古文書館の設計図面・資料についての解説から、ブラケット事務所の活動経緯を整理すると以下のようなになる。

- 1) 長女エディスは水彩画が堪能であったため、外観パースを数多く描いたが、結婚・出産によって早期に活動から離れた (年代は不明)。
- 2) オーウェンは1865年前後にエドモンドの事務所 で働き、後にエンジニアとなって事務所 の活動を支えた。
- 3) アーサーは、測量技師であったが、1871年からエドモンドの事務所に入所し、弟シリルが体調を崩したことをきっかけに1885年までに「ブラケット・ブラザーズ・アーキテクト」と「アーサー・ブラケット・アーキテクト」を設立し、1896年に引退した。
- 4) シリルは1872年に15歳でエドモンドの事務所に入所し、英国留学を経て1880年から

---

5) ウィリアム・ケンプ (William Kemp, 生没不明) が1849年から3年間、ジョン・ホーバリー・ハント (John Horbury Hunt, 1838–1904) が1863年から1868年の6年間、ジェームズ・バーネット (James Barnet, 1827–1904) が1854年から1860年までエドモンドに師事している。

エドモンドが没する 1883 年までの間に「ブラケット&サン・アーキテクト」と「シリル・ブラケット・アーキテクト」を設立した。更に何年かの休養の後、1905 年から 1907 年までウィリアム・バプチスト・ウォール (William Baptist Wall, 生没不明) なる人物と共に「ブラケット&ウォール」として共同で活動した。ブラケットの事務所にブラケット一族以外の人物の名前が入るのはこの時が最初で最後である。また更にシリルは、1911 年にシリルの息子ペンドリル・シリル (Pendril Cyril, 1885-1958) と共に「ブラケット&サン」を再結成した。

### 3. 古文書館内のエドモンド・ブラケットに関する資料検索について

NSW 州立図書館は、参考図書館 (Reference Library)、ミッチェル・ライブラリー (ディクソン・ライブラリー併設)、ギャラリーおよび法律情報、健康保健情報、家族史情報の各案内所、カフェと売店で構成されている。ミッチェル及びディクソン・ライブラリーの資料は全て閉架式であり、資料を閲覧するためには利用カード (Reader's Ticket) を取得する必要がある<sup>6)</sup>。

ミッチェル・ライブラリーの資料目録は、タイプ・ライターに手書きで情報が加筆されているカード目録が主流であったが、近年「PICMAN」および「WEBCAT」というコンピュータ目録が開設された。「PICMAN」には、主に 1992 年以降の目録 (1992 年以降に再整理された資料を意味していると思われる) が収録されており、絵画、原稿、ポスターなどを載せている。一方「WEBCAT」は、1980 年以降に入手した出版物や新聞、地図、音楽などの資料を載せており、両者とも「全ての資料 (1992 年あるいは 1980 年以前の資料) を検索するには、図書館内のカード目録を参照のこと」と解説している<sup>7)</sup>。本稿で分類を試みた建築家エドモンド・ブラケットの資料検索を例にとると、表-2 の様な体系となっている。

表-2 を見ると、ブラケットの資料は Pictures collections<sup>8)</sup> の中にブラケットのポートレートと図面、ブラケットの家族のポートレートとスケッチその他がリストアップされている。これらは、表に示すとおり、PICMAN から検索可能なタイトルである。今回分類の対照とするブラケットの図面は「Blackets-approx 3000 drawings」の中にあるが、ここに記されている資料番号は PXD 194-217 その他「microform collections」にあるマイクロフィルム番号で

6) ブルー・カードで 1980 年以降に公開された資料、家族史案内、映像音楽資料閲覧や複写サービス利用が可能。ゴールド・カードはミッチェル・ライブラリーの資料やその他特別資料を閲覧する事が可能である。

7) PICMAN の利用案内の最後には、「一部のアボリジニやトレス海峡の島のコミュニティーの人々は、死亡した人 (身内などは特に) の氏名や画像を目にすることで、悲しみと極度の疲労を感じるということを、PICMAN 利用者は承知すべきである。」と但し書きがある。

8) pictures collection は、水彩画・版画・描画 100,000 点以上、絵画約 2000 点、建築図面 75,000 点以上。

表-2 NSW 州立図書館における所蔵品の内容

Collections	Title (PICMAN)	call number	Title (PICMAN)	call number
	Edmund Thomas Blacket-portrait	ML 128		
Mitchell Library and Sir William Dixson Research Library printed books collection	Hilda Blacket-portrait	MIN 179		
	Sarah Blacket-watercolour miniature	ML 129		
Manuscript collections	Edmund Blacket-portrait photo copy	GPO 1-12251		
Pictures collections	Edmund Blacket-sketch book	PXE 925 Box 1		
Photographic collections	Blacket family-sketches	PXE 925 Box 2		
Map collections	Blacket family-sketchbook	PXE 925 Box 3		
Oral history and sound recording collections	Edith Blacket-sketch	GPO 1-18126		
	Edmund Blacket-Drawing Box	LR 77		
The State Reference Library collections	Blackets-approx 3000 drawings*		Blackets Drawings	PXD 194-217
	Cyril Blacket-St. John's Balmain	XV/66	Blacket and Son-St. Michael's Church	PXD 637/1-18
Rare books and Special collections	Blacket family papers	ML MSS 3502	Edmund Blacket- St. Luke's Church plans	PXD 719/1-11
Newspaper collection	Edmund Blacket-specifications of St.Luke's	MLMSS 156 ADD-ON 2093	Blacket and Son-St. John's Church plans	PXD 805
Online collections			Blacket and Son-St.Saviour's Cathedral plans	CY 4077
Microform Collections	Blackets-approx 3000 drawings (microfilm)		Edmund Blacket-Redford Hall	CY 712

- 予約が必要な資料
  - 本稿で分類した資料
  - ブラケットに関する資料
- \* 殆どの資料が予約必要とある

ある。この検索結果から見いだされる事項を整理すると以下のようになる。

- ① ピクチャーコレクション内の資料はオリジナルであるが、エドモンド・ブラケットに関する資料は殆ど「予約必要」となっている。
- ② 「約 3000 枚のブラケットの図面」はマイクロフィルムのみ閲覧である。
- ③ 「約 3000 枚のブラケットの図面 (マイクロフィルム)」には、内容が記されているタイトル (セント・ミカエル教会, セント・ルカ教会, セント・ジョン教会, 救世主大聖堂, レッドフォード・ホールがあり, これらは 1922 年以降に入手したものである。

以上の事から、分類対照とするブラケットの図面は殆どが PXD 194-217 の中にあり、具体的な内容は検索できない状態にある事が解る。実際に、これらの図面は「エドモンド・ブラケットの図面—シリル・ブラケットとアーサー・ブラケットの図面を含む—(The E. T. Blacket Plans—including Cyril Blacket and Arthur Blacket—)」として、CY 707 (PXD 194)~CY

716 (PXD 217) 計 10 本のマイクロフィルムにまとめられている。マイクロフィルムの中には、基本設計図、実施設計図、実寸図などの設計図面の他、外観パースやスケッチ、手紙やメモ書きなどの書類も含まれている。資料の枚数を数えると、CY 707 から CY 716 まで順に、437 枚、521 枚、525 枚、498 枚、527 枚、445 枚、433 枚、470 枚、359 枚、530 枚の計 4,745 枚である。この時点で、先に示した PICMAN の「約 3000 枚」という解説の 1.5 倍を既に超えている。

各図は、商業建築、戸建て住宅、集合住宅（テラス・ハウス）、教会建築、教育施設に大まかに分けられた後、プロジェクト立地名のアルファベット順に整理されている。しかしタイトル（プロジェクト名）内の図面の順序に関しては、年代（作成順序）や作成者による整理は全くなされておらず、外観スケッチ、詳細図、実寸図、提出図面などが、順不同に並べられている。ちなみにこの資料は、1922 年にシリル・ブラケットが寄贈したものである。この資料の中から教会建築が網羅されている CY 707 から CY 711 の 5 本計 2,508 枚のうち、Parsonage や Deanery など、居住施設のためのタイトルを除外し、教会（Cathedral, Church, School Church）の図面が含まれているタイトルを抽出すると、114 タイトル計 1,963 枚となった。これらに対して、①図面に記されている捺印の判別、②日付印の確認、③図面に記された番号による作成時期の検討、④描画やロゴによる作成者の判別を行った。

#### 4. 設計図面・資料の分類と考察

まず、設計図面に示されている事務所の捺印は、以下の 12 種類である。

図-1, 図-2 EDMUND THOMAS BLACKET Architect, SYDNEY

図-3 BLACKET & SON Architects, SYDNEY

図-4 BLACKET & SON ARCHITECTS date 69 PITT ST., SYDNEY

図-5 BLACKET AND SON ARCHITECTS 5 BOND ST., SYDNEY

図-6 BLACKET BROS. ARCHITECTS date,99 PITT ST SYDNEY

図-7 BLACKET BROS. Architects, COMMERCIAL CHAMBERS, BOND・ST.

図-8 BLACKET BROS. Architects, SYDNEY

図-9 CYRIL BLACKET ARCHITECT Diocesan Building Surveyor. 5 BOND ST. SYDNEY

図-10 CYRIL BLACKET ARCHITECT DIOCESAN BUILDING, SURVEYOR. 5 BOND ST. SYDNEY. date

図-11 ARTHUR BLACKET Architect and Surveyor, BOND STREET, SYDNEY

図-12 BLACKET AND WALL, ARCHITECTS, 5 BOND ST., SYDNEY date

まず、エドモンド・ブラケット事務所（図-1, 2）の捺印のある設計図面は、1883 年までにエドモンドを中心とした事務所体制の中で描かれたものであり、図-2 の捺印から事務所



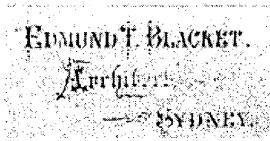


図-1 エドモンド・ブラケット-1



図-2 エドモンド・ブラケット-2



図-3 ブラケット & サン-1



図-4 ブラケット & サン-2

BLACKET AND SON  
ARCHITECTS  
5 BOND ST., SYDNEY

図-5 ブラケット & サン-3



図-6 ブラケット・ブラザーズ-1



図-7 ブラケット・ブラザーズ-2



図-8 ブラケット・ブラザーズ-3



図-9 シリル・ブラケット-1

CYRIL BLACKET.  
ARCHITECT.  
DIODESAN BUILDING SURVEYOR.  
5 BOND ST.  
SYDNEY.  
1842-96

図-10 シリル・ブラケット-2



図-11 アーサー・ブラケット

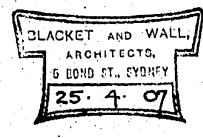


図-12 ブラケット & ウォール



図-13 St. スティーブンス (No. 25), E ロゴ

DRAWING No 2

図-14 St. スティーブンス, E ロゴ

Chh Saints Church Woolahra

Scale 8 Feet to an Inch

図-15 ウーラーラ, オールセインツ (No. 44), S ロゴ



図-16 セント・スティーブンス (No. 25), C ロゴ

St. Johns  
Church  
Glebe

図-18 St. ジョンズ (No. 20), C のロゴ



図-19 バーウッド長老派教会 (No. 13), A ロゴ

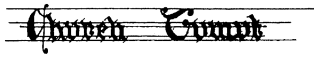


図-17 オールセインツ教会 (No. 99), Br ロゴ

名の周囲が楕円で囲われていることから、図-1の捺印から図-2の捺印へ変わったと考えられるが、これらの図面には殆ど日付が入っていないために、デザインの異なる捺印を分けて整理することは困難である。そこで、エドモンド・ブラケット事務所の2つの捺印を1種類と考え、便宜上Eとして表-3に示す。次に、図-3~5のブラケット&サン事務所については、前述したとおり1883年までにエドモンドとシリルが設立した事務所と、1911年にシリルとペンドリルが設立した事務所に分けられるが、これも日付が記載されていない場

表-3 ミッチェル・ライブラリーの設計図面・資料リスト

No.	NAME (Church of England)	YEAR	PLACE	Film NO.	Total 1	E	S	Br.	C	A	BW	Total 2	F	office
1	Congregational		Bourke St., Syd.	D 194 1-3	3							0	3	?
2	Christ Church of St. Laurence	1857	Sydney	D 194 8-33	36	1		6				7		E→S
3	Holy Trinity (Old Plan)	1842-1875	Miller's Point, Argyle St.	D 194 34-82	50	10				2		12		E→S
4	Congregational	1846	Pitt St., Sydney	D 195-1 1-6	6							0		→E
5	St. Andrews Cathedral	1874	George St. Sydney	D 195-1 7-25	19	1	2					3		E→S
6	St James'	1846	King St. Sydney	D 195-2	15		5					5		E→S
7	St Philip's	1848-	Church Hill, Sydney	D 195-2 20-40	13	6	1					7		E→S
8	Hunter Basil's	1895	Annandale	D 196-2 1-66	47	7		6		11		24		E→S
9	St Davids	-1845	Ashfield	D 196-3 1-2	2							0		→E
10	St John's	1981	Ashfield	D 196-3 3-18	19		1	2	4		1	8		S→
11	St John's	1907	Balmain	D 196-3 33-37	5		1	2			1	4		S→
12	St Mary's	1843	Balmain	D 196-3 38-51	16	1						1		→E
13	Presbyterian	1884	Burwood	D 197-1 2-39	40		2	10	10	15		37		S→
14	St Peter's	1846	Cook's River	D 197-1 43-46	4	3						3		→E
15	St. James	1883	Croydon	D 197-1 47-61	16	1	3			6		10		E→S
16	St Mak's	1848	Darling Point	D 197-2 1-44	45		2	1	2	2		5		E→S
17	St John's	1856	Darlinghurst	D 197-2 45-137	96	10	5	11		8		34		E→S
18	St Stephen's		Edgecliff	D 197-2 140-145	7		1	4	1			6		S→
19	Christ		Gladesville	D 197-2 168-176	16	3	5	4	2			14		E→S
20	St John's	1868	Glebe	D 198-1 1-94	93	20	1	1	16		4	42		E→S
21	All Souls'	1881	Leichhard	D 198-1 1-16	16		7	1				8		S→
22	Mcdonaldtown	1885	Mcdonaldtown	D 198-2 32-44	13			5				5		S→
23	St Mathew's	1864,1918	Manly	D 198-3 1-79	88	4	4	8	1	3		20	4	E→S
24	Methodist		Mosman	D 199-1 16	1							0		?
25	St Stephen's	1871	Newtown	D 199-1 17-89	74	27			9	1		37		→E
26	Congregational		North Shore	D 199-1 90-102	14							0		?
27	St Thomas	1877	North Shore	D 199-2 1-104	105	17	23	16				56		E→S
28	St Mathew's	1859	Paddington	D 200-1 1-11	12				3			3		E→S
29	All Saint's	1860	Parramatta	D 200-1 12-16	5	4						4		→E
30	St John's	1882	Parramatta	D 200-1 17-47	34		7	1	10			18	1	S→
31	All Saints		Petersham	D 200-1 48-59	12				7	1		8		S→
32	Baptist		Petersham	D 200-1 60-68	9					7		7		S→
33	St Jude's	1860-	Randwick	D 200-2 23-48	32							0		→E
34	Congregational	1847,1883	Redfern	D 200-3 1-17	17		13	1				14		E→S
35	St Paul's	1848,1913	Redfern	D 200-3 18-53	36	2	6	3				11		E→S
36	St Anne's	1861-	Ryde	D 200-3 81-86	7		4					4		E→S
37	St Andrew's	1885	Summer Hill	D 200-3 87-93	6		5					5		S→
38	St Michael's	1854	Surry Hills	D 200-3 95-109	15	1				3		4		E→S
39	St Paul's	1913	Wahroonga	D 201-1 1-6	7		2			1		3		S→
40	St Silas	1868	Waterloo	D 201-1 10-50	46	21	4					25		E→S
41	Church	1864	Watson's Bay	D 201-1 51-73	28							0		→E
42	St Mary's	1863	Waverley	D 201-1 74-101	33							0		→E
43	St Stephen's	1882-	Willoughby	D 201-2 1-44	45		10	12		2		24		S→
44	All Saint's	1874-	Woollahra	D 201-3 1-75	78	6	26	3	2			37		E→S
45	St. Stephen's		Woollahra	D 201-3 76-77	2					2		2		?
46	Presbyterian	1856-	Woolloomooloo	D 201-3 78-81	4							0		→E
47	Church	1908	Woolwich	D 201-3 82-84	3				3			3		S→
48	Albury	1857	Albury	D 202-1 1-2	2					1		1		E→S
49	St John's		Bega	D 202-1 8-42	34	17	2	2		2		23		E→S
50	Belford		Belford	D 202-1 43-44	2							0		S→
51	Bellambi		Bellambi	D 202-1 45	1							0		S→
52	Binbara		Bingara	D 202-1 46	1							0		?
53	All Saint's	1879	Bodalla	D 202-2 1-74	81	6	7	5	6			24		E→S
54	St Andrew's	1881	Braidwood	D 202-3 1-58	57		3	6	4	7		20		S→
55	Brewarrina	1870	Brewarrina	D 202-3 64-66	5							0		→E
56	St Augustine's, Burwood	1871	Newcastle	D 202-3 70-85	16			2		1		3	13	E→S
57	St Peter's		Campbell Town	D 203-1 1-4	4			2				2		S→

No.	NAME (Church of England)	YEAR	PLACE	Film NO.	Total 1	E	S	Br.	C	A	BW	Total 2	F	office
58	Candelo		Candelo	D 203-1 5	1		1					1		S→
59	Casino		Casino	D 203-1 6	1							0		S→
60	Casterton		Casterton	D 203-1 7	1							0		S→
61	Cessnock		Cessnock	D 203-1 8-9	2				2			2		S→
62	Coolamon	1909	Coolamon	D 203-1 10	1							0		S→
63	Corrimal	1909,1911	Corrimal	D 203-1 11-14	4		3		1			4		S→
64	Cawra		Cawra	D 203-1 15-16	2							0		?
65	St. Luke's	1842	Dapto	D 203-1 17-23	8				3			3		E→S
66	Holy Trinity	1875	Dubbo	D 203-1 29-46	19	6	2					8	1	E→S
67	Forbes		Forbes	D 203-1 47	1							0		?
68	Holy Trinity		Glen Inns	D 203-1 48-57	9		1		4			5		S→
69	Christ Church	1857	Gosford East	D 203-1 58	1							0		→E
70	St. Saviour's Cathedral	1874	Goulburn	D 203-1 59-63	5							0		?
71	St. Nicholas'	1879	Goulburn (North)	D 203-1 69-76	9	8				1		9		E→S
72	Gulgong	1874	Gulgong	D 203-1 77-78	2							0		→E
73	Illabo	1901	Illabo	D 203-2 1	1					1		1		S→
74	Jamison Town	1908	Jamison Town	D 203-2 2	1					1		1		S→
75	Junece			D 203-2 3-11	9				3	1		4		S→
76	Holy Trinity	1869	Kameruka	D 203-2 12-16	5	5						5		→E
77	St. Stephen's	1868	Kurrajong	D 203-2 23-38	16	1				2		3		E→S
78	Leura	1902	Leura	D 203-2 39-40	2					2		2		S→
79	Limestone Plain's		Limestone Plain	D 203-2 41-42	2							0		?
80	St. Andrew's		Lismore	D 203-2 43	1					1		1		S→
81	St. Paul's	1879	Lithgow	D 203-2 44-47	4	4						4		→E
82	Liverpool	1870	Liverpool	D 203-2 48	1							0		E→S
83	St. Peter's		Maitland East	D 203-3 1-78	89	2		26	1	1		30		E→S
84	St. Mary's	1860, 1885	Maitland West	D 203-4 1-77	84	6		8				14		E→S
85	Milton			D 204-1 1-5	6							0		S→
86	Moruya			D 204-1 11-16	4					3		3		S→
87	St. Alban's	1864, 1905	Muswellbrook	D 204-1 29-42	15	2						2		E→S
88	Narrellan	~1884	Narrellan	D 204-1 43-49	7	2		5		1		8		E→S
89	Narrandera			D 204-1 50-53	4					1		1		?
90	Nepean towers Chapel			D 204-1 61-75	15	5						5		→E
91	St. John's	1857	Newcastle	D 204-1 76-84	11							0		→E
92	Parramatta Junction		Parramatta	D 204-2 3-4	2	1				2		3		E→S
93	Penrith	1905	Penrith	D 204-2 1-12	9				2	5		7		S→
94	St. Mark's	1850	Picton	D 204-2 13-17	5	3	1					4		E→S
95	St. Stephen's	1902	Port Kembla	D 204-2 18-19	2				2			2		S→
96	Riverstone	1883	Rivestone	D 204-2 20-23	4							0		E→S
97	Christ Church	~1878	Rouse Hill	D 204-2 24-29	6	4						4		→E
98	Singleton	1845, 1883	Singleton	D 204-2 32-41	10		4	1				5		E→S
99	All Saint's	1875	Tumut	D 204-2 59-74	17	4	1	2	1			8		E→S
100	St. Luke's Siota		Solomon Island	D 204-3 73	1					1		1		S→
101	Port Elizabeth Mission Church		Port Elizabeth	D 204-3 72	1							0		?
102	Perth Cathedral			D 204-3 70	1					1		1		?
103	St. Kilda		St. Kilda, Vic.	D 204-3 69	1							0		?
104	Young Church			D 204-3 67-68	2							0		?
105	St. Clement's	1847-	Yass	D 204-3	12	6						6		→E
106	St. Michael's	1846	Woolongong	D 204-3 53-54	2							0		→E
107	St. mary magdalene's	~1847	Wiseman's Ferry	D 204-3 52	1					1		1		E→S
108	Wingelo	1910	Wingelo	D 204-3 51	1					1		1		S→
109	Windsor		Windsor	D 204-3 50	1							0		?
110	St. Bartholomew's		Windellama	D 204-3 49	1							0		?
111	St. John's	1865-	Wellington	D 204-3 48	1							0		→E
112	St. John's	1881	Wallerawang	D 204-3 18-47	30	8	8					16		E→S
113	St. John's The Evangelist's	1876-	Wagga	D 204-3 17	1							0		→E
114	St. John's		Uralal	D 204-3 1-16	16						6	6		S→
	NAME (Church of England)	YEAR	PLACE	TOTAL	1963	235	173	156	106	98	6	774	22	

合には、判別が困難である。事務所の住所をみると、「ピット通り 99 番」と、「ボンド通り 5 番」があり、図-4 の捺印には、「1880 年 10 月 16 日」とあることから、こちらは事務所を設立したごく初期であることが解り、ピット通り 99 番からボンド通り 5 番へ移転したことが伺えるが、図-3 のごとく、地番の無い捺印もあるためにこれらを細分することは困難である。そこで、図-3~5 の 3 つの捺印をまとめて S とし、表-3 に示した。同様に、図 6~8 のブラケット・ブラザーズ事務所を Br、図-9, 10 のシ ril・ブラケット事務所を C、図-11 のアーサー・ブラケット事務所を A、図-12 のブラケット&ウォール事務所を BW、その他誤って混じっていると思われる図面を F とし、その枚数を表-3 に示した。さらに、捺印で分類された設計図面上に記されているタイトルロゴのデザイン（図-13~19）、図面番号をもとに、捺印の無い図面に関しても分類可能と判断された図面について、手元のメモに記した。

まず、表-3 に示すように、設計図面中捺印のある図面は 774 枚であった。その内訳は、E が 235 枚、S が 173 枚、Br. が 156 枚、C が 106 枚、A が 98 枚、BW が 6 枚となった。F の 22 枚のうち、D 194 1-3 Congregational Church (No. 1) は、「Designed by Dei Domus」と別名が書かれており、D 195 1-6 の Congregational Church (No. 4) と敷地形状が似ているので、同じプロジェクトに対して他の設計者が作成した案ではないかと思われる。また、D 198 -3 1-79 St. Matthew's (No. 23) は「Manly Beach Church」という別のプロジェクトの図面であり、D 200-1 17-47 St. John's (No. 30) は、「St. Matth・・(以下不明)」と書かれており、また D 202-3 70-85 St Augustine's (No. 56) は、「Burwood Church」と「Newcastle Church」の図面が混在してここに分類されている根拠が不明、D 203-1 29-46 「Holy Trinity」(No. 66) は、テラスハウスの立面図が混在していたが、描画の性質から判断すると、これらはいずれもブラケット一族の事務所で描かれた図面であると考えられる。ここで、設計事務所の変遷を参照しつつ設計図面の分類内容を再確認すると、次のようになる。

- 1) 1880 年から 1883 年までにシ ril がシ ril・ブラケット事務所とブラケット&サン事務所を開設する前（1880 年以前）の日付があるものは、全てエドモンド事務所の図面である。
- 2) プロジェクト年代が 1860, 1870 年代であるのにも拘わらず、Br や S の図面が含まれているものは、エドモンドが開始したプロジェクトを引き継いだかあるいは、エドモンドが設計した教会の改修、増築図面であると考えられる。また、プロジェクトの年代がエドモンドの時代であるにもかかわらず、E の図面が存在していないものも同様に、エドモンドが作成した図面は紛失し、息子たちの図面のみが残っていると考えられる。
- 3) S の 1880 年~1883 年の図面は、エドモンドが関与している可能性があるが、1883 年（エドモンド没年）以降の図面は、エドモンド事務所のスタッフとシ ril が手がけてい

る。

4) Br においては、アーサーとシ ril の双方が手がけている。

よって、捺印による分類では、調査した設計図面・資料の総数 1963 枚のうち、エドモンド事務所が手がけたと確認できた E の図面は 235 枚であり、エドモンドが 3 年間のみ関与している可能性があるが、殆どがシ ril とアーサーが手がけたと考えられる S の図面は 173 枚、シ ril とアーサーが手がけた図面 Br, C, A, BW は 366 枚となり、調査対象とした設計図面・資料の中には、エドモンド自身が手がけた設計図面よりも、シ ril, アーサーが手がけた設計図面の方が遙かに多く含まれていることが解った。さらに、捺印と日付及び捺印の無い図面に対してタイトルロゴなどから判断した内容を含めて、プロジェクトが継承された流れを、以下のようにまとめ、表-3 中「office」の欄に記載した。

- (a) E の図面があるが S, Br, C, A の図面が無いあるいは家具詳細のみであることによつて、エドモンドの計画全体に手が加えられた形跡が無いプロジェクトを「→E」とした。
- (b) E の図面があり、S, Br, C, A の平面、立面図などもあることから、エドモンドが手がけた作品の建設、改修や増築を息子が引き継いだと判断されるプロジェクトを「E→S」とした。
- (c) エドモンドの作品としての記録が無く E の設計図も無いものを、エドモンド&サン事務所以降のプロジェクトとして「S→」とした。

この分類によつて、全 114 タイトルのうち、エドモンド事務所の時代までに完成されたと考えられるプロジェクト (→E) は、全 114 タイトルのうちわずか 22 であった。そのうち、平面、立面、断面などの設計図面がそろっているものは 7 であった。また、エドモンドが着手したものをシ ril とアーサーが引き継いだと考えられるプロジェクト (E→S) は 40 であった。更に、シ ril とアーサーが事務所を結成した以降に着手したと考えられるプロジェクト (S→) は、36 であり、更にシ ril とペンドリルが事務所を再結成した以降のものは 3 であった。最後に年代や作成者が全く判別できない図面のタイトル (表中?印) は 16 タイトルであった。この様に、設計図面・資料をもとに作成した事務所を整理すると、実際にはエドモンド事務所の設計図の枚数がとても少なく、またプロジェクトの総数からみてもエドモンドが完成させたものはわずかであることが解る。

人物と年代が重複しているにもかかわらず、12 種類の捺印と 5 つの別名の事務所を設立していたことは、各図面の制作者と各プロジェクトの担当範囲を後世まで記録するものであった。これは、エドモンド・ブラケットと息子達の主張であるとも言え、保管資料の貴重さ

と内容確認の重要性を裏付ける結果となった。

## 8. ま と め

本研究により、エドモンド・ブラケットの図面の分類によりミッチェル・ライブラリーの資料公開のシステムと資料整理の現状の一端を知ることができた。エドモンド・ブラケットの設計図に関して、本研究により著者がまとめた分類によると、実際にエドモンドが関与した計画は、資料の全体数からして非常に少なく、「エドモンド・ブラケットの図面—シрил・ブラケットとアーサー・ブラケットの図面を含む—」というタイトルはいずれ修正されなくてはならないだろう。また、少数ではあるが、他のプロジェクトや他者の図面が混在している例があり、それらも何れ整理されなくてはならない。さらに、複数のタイトルについては既に整理が成されていたが、オンライン・インデックスで検索できる資料が、1992年あるいは1980年以降の資料に限られることは、図書館全体の保管資料の量や歴史からしても非常に限られた範囲だと言わざるおえず、それ以前の資料についても整理が進められてゆくことが望まれる。実際、NSW 州立図書館では、「建築基金 (Foundation for Architecture)」として、図書館が保管する約 80,000 枚の建築設計図面やスケッチの目録化、マイクロフィルム化のための資金寄付を募っている。また現在、州立図書館では、図書館内の資料を用いてオーストラリアの歴史等の研究を行う学生および研究者に対して数種の奨学金制度を実施しており、本館資料から貴重事項の発掘や発見を促す活動を行っている (表-4)。

「Project 2000-2010」の内容に見るとおり、資料のデジタル画像化が進められる中で、デジタル化した資料をオンライン・ライブラリーに掲載するかあるいは利用カード所持者にのみ公開するかなど、公開の形式も様々である。また、資料のデジタル化はオリジナル資料を保護するのに有効であると同時に利用者が資料の情報を得やすくなる反面、利用者がオリジナルの資料に触れる機会が少なくなることを示す。今回対象としたエドモンド・ブラケットの設計図面を例にとれば、まず、現在利用カードを提示して閲覧できる資料はマイクロフィルムであり、白黒画像であるため、オリジナルの資料が着彩されているものか、着彩されているとすればどの様な色なのかは知る由もない。今後全ての資料がデジタル化されれば、当

表-4 NSW 州立図書館の資料を使った研究に対する奨学制度

Subject	Award
C. H. Currey Memorial Fellowship	Annual \$20,000
Nancy Keesing Fellowship	Annual \$10,000
Milt Luger Fellowships	Annual \$5,000, \$3,000
Visiting Scholars-in Residence	No financial award

然オリジナル図面からのデータ化であるので、色具合を知ることができるが、同時に現在増加している「スタッフに予約の上でのみ閲覧できる資料」がますます増えることが予想される。また、デジタル化の精度が上がってゆくとしても、オリジナルの資料の風合いやテクスチャーを知ることができないのは研究者にとっては残念な事である。更にデジタル化した資料に対しては、著作権規制が厳しく、複写（コピー）料金なども高額になる可能性がある<sup>9)</sup>。古文書館は、利用者に幅広い利用を促すと同時に貴重な資料を確実に保管するため、公開体制については細心の配慮が必要とされる。資料整理や公開体制について、今後も対応を見守ってゆきたい。

\*本調査に関して、ミッチェル・ライブラリーのオリジナル資料部マーティン・ベケット（Martin Beckett）氏、シドニー大学建築学部上級講師トレバー・ハウエル（Trevor Howell）氏に多大なる協力と助言を頂いたことを感謝致します。

---

9) 現在、マイクロフィルムから CD への焼き付けは白黒で 300 枚以上 35 セント/枚、グレースケールで 100 枚以上 70 セント/枚、少数の場合 8 ドル/枚となっている。